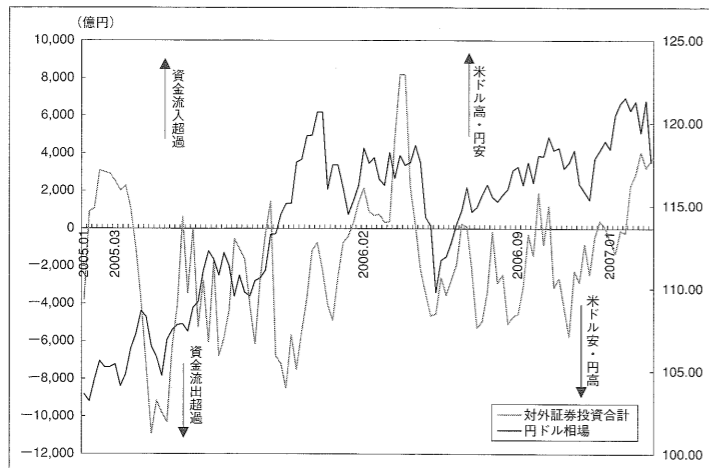


図表1 追加利上げ(21日)前後の主要マーケットの動きを振り返る

| 年月日 | 無担保コール | 新発長期国債 | TIBOR | 円ドル相場 | 円ユーロ相場 | 日経平均株価 |
|------------|--------|--------|---------|--------|--------|----------|
| | 翌日物 | 10年 | 3カ月 | | | |
| 2007.02.19 | 0.354 | 1.710 | 0.55182 | 119.45 | 157.12 | 17940.09 |
| 20 | 0.358 | 1.705 | 0.55273 | 119.94 | 157.83 | 17939.12 |
| 21 | 0.402 | 1.685 | 0.55273 | 120.43 | 158.44 | 17913.21 |
| 22 | 0.528 | 1.665 | 0.65000 | 121.23 | 158.71 | 18108.79 |
| 23 | 0.510 | 1.670 | 0.65727 | 121.34 | 159.29 | 18188.42 |

図表2 対外証券投資動向と円ドル相場の関係は?



図表2は、財務省発表の「対外外債売却による円高圧力がじわじわ形成されている」3つ目の教訓。やはり為替相場を動かす要因として、わが国の投資家による海外の有価証券の売り買いの動向が非常に大きな意味を持つということだ。

図表2は、財務省発表の「対外外債売却による円高圧力がじわじわ形成されている」3つ目のポイント。財務省発表の「対内対外証券投資状況」は為替相場を見るうえでとても重要なデータであることを覚えておきたい。

「追加」とは昨年7月14日に行った「ゼロ金利からの決別」に続く追加措置であるという意味であり、「利上げ」とは「無担保コール翌日物金利」の誘導目標水準を0.25%引き上げて年0.5%にしたということ。それ以前には「利上げは円高を招き、利上げ、円高は企業業績を多少なりとも削

データの種類があることだ。それを如実に示したのが、2月27日の上海市場での株式暴落に端を発した世界同時株安の真つ最中の3月5日のこと。日経夕刊一面には「日経平均1万7000円割れ 下げ幅一時400円超 円、115円台に」の記事と並んで、「設備投資16.8%増 10-12月過去最高の伸び率 法人統計」

とある。つまり、設備投資増勢という株式市場にとっては最良のニュースには、この日の東京株式市場はまったく反応しなかった。なぜか。簡単だ。リアルタイムで動いている円高、アジア株の急落という現象のもとでは、数カ月前に調査された結果の経済データなど、ほとんど反応しないのだ。「昨年10-12月期の設備投資」のデータはいわばバッチデータ(過去において蓄積されたデータがそれから時を経て一気に処理され、明らかに)だ。

急速に円高・ドル安が進行した。急激な円高は2月27日の上海株式の急落に伴う円キャリートレードの解消によるものと説明される。しかし、このチャートを見るかぎり、2月入り前後あたりから、中長期の外債売却に伴う円高圧力がじわじわ形成されていたと見ることが出来る。

「追加」とは昨年7月14日に行った「ゼロ金利からの決別」に続く追加措置であるという意味であり、「利上げ」とは「無担保コール翌日物金利」の誘導目標水準を0.25%引き上げて年0.5%にしたということ。それ以前には「利上げは円高を招き、利上げ、円高は企業業績を多少なりとも削

データの種類があることだ。それを如実に示したのが、2月27日の上海市場での株式暴落に端を発した世界同時株安の真つ最中の3月5日のこと。日経夕刊一面には「日経平均1万7000円割れ 下げ幅一時400円超 円、115円台に」の記事と並んで、「設備投資16.8%増 10-12月過去最高の伸び率 法人統計」

とある。つまり、設備投資増勢という株式市場にとっては最良のニュースには、この日の東京株式市場はまったく反応しなかった。なぜか。簡単だ。リアルタイムで動いている円高、アジア株の急落という現象のもとでは、数カ月前に調査された結果の経済データなど、ほとんど反応しないのだ。「昨年10-12月期の設備投資」のデータはいわばバッチデータ(過去において蓄積されたデータがそれから時を経て一気に処理され、明らかに)だ。

急速に円高・ドル安が進行した。急激な円高は2月27日の上海株式の急落に伴う円キャリートレードの解消によるものと説明される。しかし、このチャートを見るかぎり、2月入り前後あたりから、中長期の外債売却に伴う円高圧力がじわじわ形成されていたと見ることが出来る。

「追加」とは昨年7月14日に行った「ゼロ金利からの決別」に続く追加措置であるという意味であり、「利上げ」とは「無担保コール翌日物金利」の誘導目標水準を0.25%引き上げて年0.5%にしたということ。それ以前には「利上げは円高を招き、利上げ、円高は企業業績を多少なりとも削

データの種類があることだ。それを如実に示したのが、2月27日の上海市場での株式暴落に端を発した世界同時株安の真つ最中の3月5日のこと。日経夕刊一面には「日経平均1万7000円割れ 下げ幅一時400円超 円、115円台に」の記事と並んで、「設備投資16.8%増 10-12月過去最高の伸び率 法人統計」

とある。つまり、設備投資増勢という株式市場にとっては最良のニュースには、この日の東京株式市場はまったく反応しなかった。なぜか。簡単だ。リアルタイムで動いている円高、アジア株の急落という現象のもとでは、数カ月前に調査された結果の経済データなど、ほとんど反応しないのだ。「昨年10-12月期の設備投資」のデータはいわばバッチデータ(過去において蓄積されたデータがそれから時を経て一気に処理され、明らかに)だ。

急速に円高・ドル安が進行した。急激な円高は2月27日の上海株式の急落に伴う円キャリートレードの解消によるものと説明される。しかし、このチャートを見るかぎり、2月入り前後あたりから、中長期の外債売却に伴う円高圧力がじわじわ形成されていたと見ることが出来る。

「追加」とは昨年7月14日に行った「ゼロ金利からの決別」に続く追加措置であるという意味であり、「利上げ」とは「無担保コール翌日物金利」の誘導目標水準を0.25%引き上げて年0.5%にしたということ。それ以前には「利上げは円高を招き、利上げ、円高は企業業績を多少なりとも削

データの種類があることだ。それを如実に示したのが、2月27日の上海市場での株式暴落に端を発した世界同時株安の真つ最中の3月5日のこと。日経夕刊一面には「日経平均1万7000円割れ 下げ幅一時400円超 円、115円台に」の記事と並んで、「設備投資16.8%増 10-12月過去最高の伸び率 法人統計」

とある。つまり、設備投資増勢という株式市場にとっては最良のニュースには、この日の東京株式市場はまったく反応しなかった。なぜか。簡単だ。リアルタイムで動いている円高、アジア株の急落という現象のもとでは、数カ月前に調査された結果の経済データなど、ほとんど反応しないのだ。「昨年10-12月期の設備投資」のデータはいわばバッチデータ(過去において蓄積されたデータがそれから時を経て一気に処理され、明らかに)だ。

急速に円高・ドル安が進行した。急激な円高は2月27日の上海株式の急落に伴う円キャリートレードの解消によるものと説明される。しかし、このチャートを見るかぎり、2月入り前後あたりから、中長期の外債売却に伴う円高圧力がじわじわ形成されていたと見ることが出来る。

角川総一の
マーケット・リテラシー
金融市場を読む、解く、話す力を養う
File.002

日銀利上げから世界同時株安&円高までの市場の動きを読み解く
**株価・為替の激変を生み出した
真の要因とはなんだったのか?**